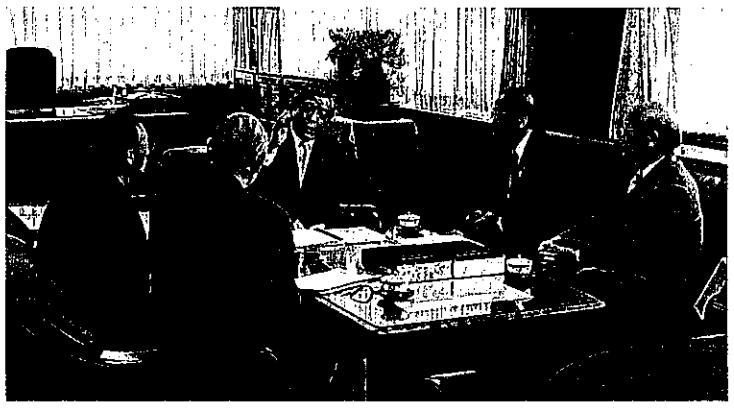
美保関新聞

本紙一部　125円
町外送料共年間　2,500円

発行所　美保関町
美保関新聞社
振替口座松江　4463
美保関町☎0852㉓0846
印刷所 ㈱カワバタ印刷

新春特別対談

# 溝口善兵衛知事 大いに語る



出席者

溝口善兵衛（島根県知事）
鷦鷯　修一（松江観光協会会長 美保関新聞社社長）
高橋　一清（松江市観光文化プロデューサー）

## 八十年継続していることは自治意識の高さ

鷦鷯　明けましておめでとうございます。美保関新聞にとって知事さんの新春談話を掲載できることを大変嬉しく思います。気軽にお話いただけるように、知事さんの幼い頃からの友人であり、私どもとも親しい高橋観光文化プロデューサーに同席いただきました。美保関新聞は一昨年発刊八十周年を迎えた民間人が編集・発行しているローカルな新聞です。当時の役場では書けなかった芸妓の番付けとか、巷のたわいもない話題を拾って記事にするかと思うと、時には天下国家も論じております。中海干拓が取り沙汰された折には、「天下の愚挙」と論陣を張りました。自由な町民意識で月に一度の発行の歴史を積み重ねてきた新聞です。

高橋　タブロイド判なのですが、その内容は鷦鷯さんがおっしゃるように多岐にわたっているミニコミ紙です。ローカル紙で八十年続いているのは、全国的にも珍しい、誇りにできる島根の宝ものと思います。

溝口　二度ばかり送っていただき、目にしております。こうした新聞が残っているということは、地域社会がそこにちゃんとあるという証しですね。

高橋　そうなんです。美保関という土地柄にはしっかりした自治意識があったから、こういうジャーナリズムが育ったのですね。

溝口　日本は都市化するスピードが速かったので、他の多くの地域では、こうしたものが消えていってしまったのでしょうね。それにしても希少価値のある新聞です。縮刷版は保存資料としても貴重なものですね。

## 経済のグローバル（地球規模）化での調整局面

鷦鷯　ところで、昨年の秋口以来、米国発の金融不況が押し寄せて来て、日本も大変なことになっています。溝口さんはどのように感じておられますか。

溝口　一つは世界的な大ブームの行き過ぎの後の急激な調整局面ということでしょう。これまでＩＴに代表されるように経済がグローバル化し、各国経済が相互に絡み合うという形で相互依存が高まる中で、誰もが景気の先行きに非常に楽観的になっていました。それが大逆転する局面に入っているということです。二つ目は、特に米国で先行き楽観主義が人々の心理を支配し、住宅ローンが不動産価格の上昇と新しい金融商品の拡大によって異常に膨らんでいましたが、バブルの崩壊により不動産価格と金融資産価値の急落により、そうした金融商品を保有していた金融機関などに大きな損失が生じました。

こういった新しい商品はリスク評価がしにくく、加えて新しい事態に金融当局が追いつくことができず、規制もなくどんどん拡大していってしまったのです。そういう中で、誰もがリスクを薄々は感じていたのだけれども、皆が買っているから大丈夫だ、金利は高く収益も大きい、金融機関なども収益を上げるためには買わなければならないという状況にあったのです。当然、それにはリスクが内包されているのですが、それを当局も正確に把握することが出来なかったのです。

どんな投機にもいつかは反転するときがきます。これが急激に米国で起こったのです。しかもそういう資産をたくさん抱えた金融機関や投資銀行の資産価値がどんどん下落していったのです。資産価値が下落するということは自己資本が減るということです。金融機関には自己資本比率の規制がありますので、新規融資を抑制するようになり、そのため企業は資金繰りが難しくなります。金融機関同士でも資金の貸し借りがありますから、一つの金融機関が破綻をすると他にも波及します。ということで米国で金融危機が起きた、これが三番目の状況です。

金融危機が起こり株式や金融商品の資産価値が下落すると、人々がその資産を使って消費しよう、企業が設備投資をしようと思ってもできなくなります。また、経済の先行きに不安が生じますから、ますます消費を控えることになります。そうするとそれが企業側にはね返って、物が売れないことになり、それで在庫が溜まるようになります。売れない商品をつくるわけにはいきませんから生産ラインを縮小することになり、そうなると雇用の調整が起こる。このようにして、金融危機が実体経済に波及してきたのです。以前より比べものにならない速度で、米国で起こったことが日本にも押し寄せてきているのです。

自動車を例に取ると、米国国内では日本のメーカーのシェアが大きいので、米国で自動車が売れなくなると、日本国内では輸出用の車の生産を落とす、そのために雇用を削減するという形で影響が出てきました。また、金融のグローバル化により、どこかの国で株価が下落するとその連鎖は瞬く間に世界中に拡大するということですね。

鷦鷯　そういうことで米国のグリーンスパン前連邦準備制度理事会議長などは百年に一度の金融危機だといっていますね。

溝口　日本では初めの頃は、そうかなぁという感じだったと思います。しかし、大波が押し寄せ始めて、政府も八月の経済対策の後、九月に例のリーマン・ブラザーズが破綻し、十月には約三十兆円の景気対策を打ちました。それでも足りないということで暮れの予算編成で更に打ち、それでもまだ足りないということであれば、政府はさらに対策を取る方針です。欧米ではもっと早く影響が経済全体に波及していますから、金融システムを安定させる対策として巨額の資金が投入されました。雇用を確保するためにはまだ足らないと、追加の措置も取られています。かつて世界恐慌の時にアメリカのルーズベルト大統領が打ち出した新規まき直しのニューディールのような政策が必要だと言われています。日本も、そして島根県もその影響を最小限に食い止めなければならない状況です。

## 活路は日本の底力（高度な技術革新）の後進国への移出

鷦鷯　米国で起こった巨大な津波が世界中で被害を起こしているということですが、立ち直るきっかけはありますか。

溝口　ＩＴの進展により情報伝達がスピード化し、物流のグローバル化により、好むと好まざるに関わらず、世界全体が一つの経済のようになろうとしています。外国のことがすぐ国内に波及してきます。こうした新しい時代の状況にあった新しい経済の枠組みが必要なのですが、それがまだできていないところに今回の金融危機の核心があると思っています。

例えば、昨年破綻したリーマン・ブラザーズは米国だけではなくて、日本にも子会社があり、米国の親会社の好不調の波が直ぐ日本に波及してきました。こうした情勢を目の当たりにすると、やはり、世界全体が協調して、巨大銀行の監視体制を作らなければならなくなっていると思います。

今のこの危機から立ち直るには三年かかるという人

もいます。私も二～三年はかかるだろうという気がしておりますが、逆に立ち直り始めたら回復は結構早いのではないかと見ています。その理由は二つあります。一つは技術革新がいろいろな分野でまだ進んでいますから、それが新しい需要を掘り起こしてくれると思います。ITや医学や環境の分野で、また、宇宙や海洋利用の面で新しいビジネス、新しい商品が出てくる。そうした可能性が潜在的にありますから、それらが雇用を拡大して行くことが期待できます。

二つ目にいわゆる振興国の中国、インド、ブラジルなどの国々では、政治がある程度安定してきていますから、人々は投資を拡大してビジネスを起こすことが可能になっています。そうした国々には働いて稼いで豊かになりたいという人たちがたくさんいますから、経済が回復していくと、新興国の需要はまた急速に拡大していくでしょう。そういった国々では先進国の高度な技術、高品質の資本財や消費財を必要としていますから、日本を含めた先進国はよい影響を受けるでしょう。

日本は多くの分野で新しい高度な技術を有していますから、先進国の金融が安定し、危機を乗り越えれば、経済は拡大の方向に向かうと思います。余り悲観的になり過ぎないで、むしろこの危機の影響を最小限に抑えて、企業は将来に備えて健全な体質を確保することが肝要です。政府も地方自治体も経済の落ち込み防止のため、強力に支援をしていきます。

## 二十一世紀は島根らしさを前面に出す時代

**鵠鵠** 島根県の知事さんとしてはどういう方向性を持って取り組まれるのでしょうか。力を注がれるのはどういったものに対してでしょうか。

**溝口** 当面は消費は減り、設備投資も増えないでしょう。また、住宅投資も減るでしょう。円高ですので輸出の方もそんなに伸びないでしょう。そういう状況ですから、政府や地方公共団体が公的な支出を増やし、民間需要の落ち込みを補完していく必要があるのです。そのためには、消費者の実質的な所得が増えるようにしなければなりません。定額給付金で消費者が使える資金を増やす、住宅減税を実施するなどいろいろ対応を政府は打ち出しています。また、介護報酬のアップにより、ここからも消費に良い影響がでて来ると思います。失業保険の料率を下げるといったことにも取り組まれますから、これも実質的に所得が増えることになりますね。

考えられる限りのことを政府はやろうとしています。県としても、政府の対策に沿って迅速に実施していきますし、県自身も単独事業を進めていきます。島根県は良い地域資源を持っています。農業の豊かなところは都市に売れるような商品を開発する、畜産業も質のよい島根和牛を持っています。この改良をもっと進めるよう支援をしたいと思います。

それと大きな柱は観光です。島根には豊かな観光資源があります。山や海や温泉だけではなくて、古代からの歴史と文化が残されています。これこそ、都市部の人々が求めるものですね。日本全体が成熟してきていますから、単に自然に触れるだけでは物足りないでしょう。おいしい食材があり、そして歴史のある神社やお寺があって、文化にも触れられる。先人はこんな生き方をしていたのか、こんなに豊かだったのか、などと過去の世界との共感が得られます。そういったものを求める人たちが近年増えてきているのですね。

溝口知事

**鵠鵠** 私は現在、松江市の観光協会会長という立場から、観光振興につとめていますが、昨年は石見銀山の世界遺産登録や、出雲大社の本殿が遷宮ということで中の拝観ができたり、松江開府四百年、そしてNHKの連続テレビ小説「だんだん」の人気ということもあって、近年にない入り込みで関連産業は潤いました。ところで、大山も含めた中海圏域が国交省の観光圏に指定されて、より広域的で滞在型の観光を志向するようになっていますが、知事さんとしてはどう見ておられますか。

**溝口** おっしゃる通りですね。当県の入込み客は増えてきていますね。また、宍道湖・中海圏には申し上げたような地域資源が豊富にありますから、これを広く知っていただきたいですね。それには、民間の方々の積極的な動きがありますから、官民挙げて、それも島根・鳥取両県で協力して、今年は更に積極的に推し進めていこうと思います。

鵠鵠 氏

**鵠鵠** この頃の傾向を見ますと海外旅行よりも国内旅行の割合が増えている傾向にあります。山陽筋に比べて山陰にはこれといった大きな企業もないですし、観光振興に一層の力を注いでいただきたいと願っています。

**溝口** そうですね。ホテルや旅館なども客の求めにあわせて施設の更新をしていかなければなりません。こうした動きを促進する支援も課題です。山陽や九州、近畿圏などの大都市圏に積極的にPRを行い、多くの方々にお越しいただいていますが、これを進めて、当圏域の認知度をさらにあげたいですね。

それに滞在型とか着地型とか言いますか、松江に着いたら、そこを起点に島根半島では出雲大社だけでなく、美保神社やさらに灯台まで足を伸ばしていただく、中海の南側では足立美術館だけでなく、さらに清水寺にもお出掛けいただく。もちろん松江市街地近辺も楽しんで、それから石見銀山にまで足を伸ばしていただく。このようにこの地の魅力ある所を網羅した旅行プランを、松江の業者の方々も作成して都会地に売り出す、このような各地が連携して取り組むことが今後大切になってきます。

**鵠鵠** 国交省も連泊を主体にしたいわゆる県境を越えた企画を推進しています。ちょうど大山から中海・宍道湖圏域からもっと西の石見銀山も含めると最も相応しい観光圏になると思います。

**溝口** その通りです。昨年十月に、国交省が全国で十六圏域を選定した中に「山陰文化観光圏」があります。両県の官民が一緒になって、広域観光圏として整備する計画をつくることになっています。今後、連泊可能な滞在型の観光のスタイルに対応しようということです。

高橋 氏

**高橋** 今、知事さんがおっしゃいました山陰文化観光圏という、このネーミングにも現れていますように、単に観光ではなく文化という言葉がはいっていることはこれまでにない二十一世紀の観光の要素でしょうね。

**溝口** 人々の関心が文化という目に見えない、感じ取るものに重きを置くようになりましたからね。単に見学したり、食べ歩くというだけではなくて、文化面とか、例えば、石見銀山遺跡の世界遺産登録の決め手になった「環境」というキーワードも重要な意味を持っています。これまでには考えられなかった要素がポイントになってきていますね。

この圏域では古代から鉄や銀を大量に産出し、それを美保関や温泉津から全国に向けて移出し、いわゆる外貨を稼いできた連綿とした歴史があります。たたら製鉄、銀の灰吹き法などの技術は、朝鮮半島や大陸から島根が近いということもあり、他に先んじて取り入れ、より高度な技術革新を遂げてきました。こうしたところにうかがえるように〝ものづくり〟の精神性、こだわりや文化は他地域にはないものだと思います。また、海岸部沿いに渡来したものだけでなく、古代から日本海に「北の海の道」という航海コースがあったことも、最近知りましたが、大いに島根発としてPRしたいですね。

## 美保関は文化の凝縮体 文化観光圏でもユニークな町

**鵠鵠** 知事さんは、奥様とお二人で、一度ならずも二度も美保関においでになったようですが、足を向けたくなる町の魅力をどう感じておられますか。

**溝口** 美保神社の直ぐ後ろは鬱蒼とした山で、直下には海があります。その間に青石畳の通りの古い町並みがある、この町は歴史と文化が凝縮されてよくまとまっていますね。美保神社や仏谷寺の仏像を拝見して厳かな気持ちになり、それから二㌔ほど歩いて灯台まで行くと、隠岐島やすそ野まで見える大山を眺めることができて、とても雄大な気持ちになります。このように変化のある、多様な風物を目の当たりにできることは嬉しいですね。自然石の石畳の通りというのは、ヨーロッパには多数ありますが、日本ではあまり見かけないと思います。その道沿いにかつての繁栄を思い起こさせる旅館や町屋がありますね。歴史が息づいた素晴らしいものがたくさんあっていい町ですね。

**高橋** 知事さんは世界中を歩いておられますが、似たような町はありますか。

**溝口** こんなに山と海が迫っていて、しかも豊かな文化がある町はそうそうありません。米国でもヨーロッパでも、海から山までは相当な距離がありますから。あるとすればイタリアとか南仏とかでしょうか。美保神社の場合は海から直接参道になっているでしょう。こんなところは珍しいですね。

**鵠鵠** 五本松節もそうなんですが、美保関の町は、海を通じて各地からの人の往来も多く、とても賑やかで絃や鼓の音の絶え間がなかったということです。島根の三大民謡ということで全国各地に招待を受けて行くのですが、全国的には民謡だけの県単位の連盟の組織を作っておりまして、島根県にはなく淋しい思いをしております。この際、県の西の方にも民謡は残っておりますので、知事さんを名誉会長に結成できればと思っておりますが。

**溝口** そういった組織はないのですか。各地に餅つき唄や盆唄などいろいろありますから、関係者がお集まりになってまず協議されてはいかがでしょう。文化の掘り起こしにもなります。毎年違った場所で民謡大会を行えば、面白い催しになり、観光客を惹きつける要素にもなるのではないでしょうか。

## 官民協働で地域社会を活性化

**高橋** 知事さんとして地域の力をどう高めていくか、これまでの話の中にもうかがえましたが、改めてこんな厳しい時代だからこそ自立をしていく県民・市民でなければならない、ご就任当初から官民挙げた協働ということを提唱されていますところからお話をお聞かせ下さい。

**溝口** 官民で協働ということは極めて大事なことでありますが、別な角度で言いますと、社会の活動の単位として家庭があり、子供たちには学校があり、大人たちには職場があります。しかし、この二つの場所を行き来するだけでは、人の生活として単調であり、味気がないですね。これらを取り巻くものとして地域社会があるのですが、この地域社会が元気になることが大切だと考えています。自分がやっている仕事や学校での勉強以外の活動に皆が参加することによって、人の生活は多彩で変化があって、楽しみもあるものになると思っています。町を綺麗にするボランティアグループや、今ではあまり口ずさまれることのなくなった民謡を活発にするグループがありますよね。また、自治会や任意団体の活動、或いは地域の女性の方が中心になって郷土の料理を復活する動きなどもあります。NPOの活動で地域おこしに取り組んでおられる方々もいらっしゃいます。そうした方々の活動を県がいろいろな形で支援をしていくことによって活動を活発にしていきたいと思います。頑張っておられる方々を顕彰して他の地域の方々にも知っていただくなど、今年も継続し、更に発展させて取り組んでいきたいと思っております。

**鵠鵠** 美保関には、三十年も前には自治懇話会という組織があったのですが、現在はそれはありません。しかし、昨年、町づくりの協議会を新たに立ち上げまして、NPOなどと連携して、先ず、民間が声を上げることから始めました。期待しておりますが、知事さんの先ほど来の話と合致する部分が多くて心強く思いました。

**溝口** 都会地の若い人たちは、美保関のような景色に恵まれ、文化が凝縮したところに魅力を感じて来てくださっています。こうして訪れた人々の受け入れ体制をより整備し、ゆったりした気分を味わってもらうことが大切になってきます。私どもが行った時も、地元で作られたお弁当や総菜があって、それをいただいてのんびりした気分になりましたね。